

第14期 第7回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 令和元年10月15日(火) 14時00分 ～ 16時40分

2 会 場 鳥取市役所 本庁舎6階 第1会議室

3 出席者 【委員】

本名俊正委員(会長)、南部敏委員(副会長)、音田正顕委員、上田光徳委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、山田康子委員、福山敬委員、牛尾柳一郎委員、森本早由里委員、民家幸世委員

【教育委員会(事務局)】

中村隆弘次長、竹田潤主幹兼指導主事、大坪宗臣主任

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名委員の選任
- 4 報 告
 - (1) 第6回校区審議会審議概要について
 - (2) 校区審議に関連する活動報告について
 - (3) 9月定例議会での質問と答弁について
- 5 議 事
 - (1) 本市の中長期的な校区のあり方について
 - (2) 千代川以西エリアの学校のあり方について
 - (3) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

5 議事の概要

事務局

ただいまより、第7回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。

なお、本日は、谷口委員よりご欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

前回の第6回校区審議会では、中長期的な校区のあり方を考えるにあたり、学校適正規模の基準についてご審議いただきました。また、千代川以西エリアについても、鳥取市全域の中長期的な校区のあり方の議論を踏まえながら、少し具体的に校区再編の方法をご検討いただくこととなったかと思えます。

本日も、引き続き2つの議題でご審議をいただきたいと思います。

それでは、会長よりご挨拶をいただき、以降の会の進行をお願いします。

会長

みなさん、こんにちは。本日は、前回に引き続いての内容になりますが、議事2の千代川以西エリアについて、議事1とも併せながら具体的な検討を進めたいと思います。ご審議をよろしく願います。

それでは、議事録署名委員を選出したいと思います。名簿順により、音田委員、吉澤委員、よろ

しくお願いします。

では、報告事項に入ります。(1)～(3)まで、まとめて事務局より説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

3つの項目について、委員の皆さんからご質問等はございませんか。

江山学園の取組について、〇〇委員の方で追加のご説明がありましたらお伺いしたいと思います。

委員

来年4月の開校ということで、半年を切りました。校名が決まり、校章の最終選考も終わりました。本日、教育環境整備部会があるのですが、校歌の歌詞を第一次選考していくことになっています。校歌歌詞が決定しましたら、作曲をお願いするという流れです。校舎についても色々と議論を重ねました。増築棟の特別教室などどのくらいの広さが必要なのか、目的も含めて検討しました。また、新設教科として「江山かがやき科」という教科ができましたので、表現力や発信力を持たせたいということで、自分たちで考えてみんなの前で発表する場としてプレゼンルームを設置することになりました。そのような校舎の中身や広さがほぼ決まりつつあるというような状況です。本日の部会で、概ね了承が得られれば準備委員会に諮って決定していくという流れになっています。

制服については、地域の保護者を交えて説明会を2回開催しました。現在は、男子が詰襟、女子がセーラー服なのですが、最近の流行であるブレザーは機能面や価格はどうかといったことについて業者を呼んで説明を受けてそれをもとにして、何年生から着用するのがいいのか、どういうデザインがいいのかといったあたりについて保護者を対象にアンケートをして、先週に集計を行いました。先週の会の中では、7年生からでいいのではないかとということがありましたが、デザインについてはLGBTにも対応して男女とも上のブレザーはボタンだけ変えろとか、下はズボンを着用するとか考えていった方がいいのではないかとといった意見もありました。そういったことを話し合いながら、制服についてまとめつつあります。

11月に入れば仮設校舎の建設がいよいよ始まってまいります。12月8日には、学校と準備委員会で、学校の教職員、保護者、地域の方々も含めて現在決まっていることの報告会を再度行おうということになっています。それに加えて、講演もさせていただこうということで、湖南学園が開校した時の校長先生をその当時の様子を含めてお話いただき、学校と家庭と地域で江山学園を盛り上げていく機運を高めていきたいと考えています。

会長

土地の買収などは必要ないのでしょうか。

委員

地域からそういった要望も挙がっていますが、なかなかすぐにはできませんので、これからのことになるのではないかと思います。今の敷地の中で、校舎は収まる形に持っていきましましたので、考えれば中学生の部活などの状況を踏まえながら、グラウンドを広げるのか現状のままとするのかは今後の議論になってくるのではないかと思います。

会長

敷地の横に寄付していただいた土地があるかと思いますが、これは使用可能になるのでしょうか。

委員

ここについては、工事費を来年度の予算に上げてということになると思います。現在の駐車場の位置に増築校舎が建設されますので、それに替わる駐車場を整備するという案があります。まずは、雑木林を早めに整地してほしいという要望は挙がっていますが、予算等との兼ね合いもありますので、工事は来年度からになるのではないかと聞いています。

会長

何か皆さんからご質問はありませんか。

着々と準備は進んでいるようですし、皆さんが意欲的に一体となって進めていらっしゃるようです。新しい学校に期待したいと思います。よろしくお願ひします。

それでは、議事に入りたいと思います。議事1「本市の中長期的な校区のあり方について」、事務局より説明をお願いします。

事務局

〔資料説明〕

会長

2つの内容についてご説明をいただきました。1つは、答申案の内容ですが、こちらは毎回少しずつ修正を加えながら作成していきたいと思います。もう1つの3パターンのエリア分け地図については後ほど議論したいと思います。まず、答申案の内容についていかがでしょうか。

参考資料の3ページに折れ線グラフがあります。3つのパターンを作成するにあたっての根拠にあたる部分ですが、平成17年から令和7年まで20年間に鳥取市立の学校の児童生徒数が22.1%減少していくだろうというものです。なお、平成17年から令和元年までは実数を、令和2年から令和7年までは未就学児の数から算出したものになっています。この20年間の減少率22.1%をもとに、今後20年後には各小中学校でどのくらい児童生徒数が減るのか、この減少率をかけて予測しました。これで導き出した児童生徒数をもとに、前回議論した適正規模の基準と照らしてパターン1からパターン3のような学校数を整理していきました。これはあくまでも機械的に行ったものですので、必ずこうなるというものではありません。

参考資料の5ページには、今年度の小中学校の学級数を順に並べたものです。6ページは、同様に20年後の予想です。最も大きい学校では、現在21学級あるものが18学級に減ってきます。22.1%減ということですので、およそ現在の数字の78%くらいの数になってくるということになります。

参考資料9ページに「学校適正規模・適正配置の基本的な考え方」、11ページに「適正規模・適正配置の基準」として具体的な数字を出しながらまとめています。

以上のような形で、前回までのご意見を踏まえて作成していますが、毎回少しずつ修正しながらまとめていきたいと思います。内容についてはよろしいでしょうか。

それでは、各パターンについてご意見をいただきたいと思います。例えば、新市と旧市の校区再編の考え方は少し異なると思います。新市は新市としての地域の課題がありますので、そういった課題を考える中で、地域に学校を残した方がいいのではないかとのご意見もあります。その他、義務教育学校の設置、その他具体的な校区再編の方法など、いくつかポイントがあります。それでは、各パターンについてご意見を伺っていただきたいと思います。〇〇委員よりお願いします。

委員

20年後を見据えたという大きな前提を、この答申のどこで取り上げるべきなのかということが少し気になりました。答申の最初の「はじめに」の部分で触れるのか、あるいはパターンの説明の中で触れるのか、どこで触れるのがいいのかということが気になりました。

参考資料の7ページの「※3」の文中の文言は「編制」という表記だと思います。参考資料12ページの「※1」の文中の文言は「公立義務教育諸学校」、先ほどと同様に「編制」という表記に修正をお願いします。同じページの表に、「2040年の基準」とありますので、20年後を見据えるという前提を、

これより前の部分に触れた方がいいのではないかと思います。また、この表の並びですが、一番左に「国の基準」を、真ん中に「現在の鳥取市の基準」を、そして右に「2040年の基準」にした方が見やすいと思います。そして「現在の鳥取市の基準」の中に、「国の規定である」という文言が出てきますので、順番を入れ替えた方がいいと思います。

パターンについてですが、私はパターン2がいいと思いました。パターン3はあまりにも校区が広すぎますし、非現実的ではないかと思います。パターン1は、課題が残ってしまう校区が多くなってしまいます。そうしたことから、この中ではパターン2がいいのではないかと思います。しかし、このパターン2についても色々と皆さんと慎重に検討した方がいいのではないかと思います。それから、前回の議論の中にあっただけですが、新市と旧市の概念は重視した方がいいのかどうかと思いました。現在すでに合併をして15年が経過し、さらにその20年後の話をする中で、新市と旧市の再編の考え方をそれぞれ分けることは、本当にいいのだろうかと思いました。言葉の使い方や定義にしても、もう一度考えた方がいいのではないかという印象を持ちました。

会長

新市と旧市の間にいつまでも線を引いておこななくてもいいのではないかということでした。

委員

適正規模について前回まで議論してきましたが、先日香川県の方からお話を聞く機会がありましたが、町レベルでも中学校の規模が600人であったり、高松市になると1,000人規模の学校があったりするそうです。香川県は面積が小さいので、単純に比較はできませんが、鳥取市の面積と人口を考えると、何をもちいて適正にするのか、道路の整備状況なども関係してくると思います。これまでは幹線道路を基準にしながら学校配置が行われ、それぞれの学校区で文化が築かれていったということがあると思うのですが、随分と道路事情なども変わったことを踏まえると同時に、これからの20年後の児童生徒数を予測すると、現在の中学校区を維持するパターン1というのは難しいと思いますし、パターン2でも中学校数がそんなに減りません。一方でパターン3は減りすぎてしまうと思います。パターン2とパターン3の間くらいまで切り込めないものかと感じています。ただ、具体的にどういったエリアで考えるのかということまでは、まだイメージできていません。

委員

先ほど〇〇委員がおっしゃられたことについて、私も同様な考えを持っていましたので、その部分については割愛させていただきます。パターン1は現状の中学校を維持するというので、あり得ないのですが、現状の中学校を残すとなるとこれだけの課題が残ることが、一般の皆さんにお示しする場合にわかりやすいのではないかと思います。参考資料の6ページに20年後の学校ごとの学級数がありますが、中学校区ごとで見させていただく場合には、パターン1の地図が分かりやすいので、参考資料として付けてはどうかと思います。パターン2は、義務教育学校を残す前提となっているのですが、20年後は義務教育学校も再編の対象になるということもあり得ることを想定すると、義務教育学校ということで分ける必要はないと思います。パターン2とパターン3の間くらいがいいのではないかと思います。せっかく20年後の想定なので、千代川以外にも、幹線道路など、子どもの安全を考えて区切るということも考慮してはとも思います。ただ、そうすると地域を分断することにもなりますので、どこまでできるかわかりませんが、あくまでも将来的なイメージとして方向性を示すことはありではないかと思います。

委員

答申案の柱立てや説明については、前回よりもわかりやすくなったと感じました。校区のパターンについては、色々なご意見を伺って難しいと思っています。新市域は長い歴史の中で、一つの町であったことを考えると一つの中学校区という考え方でいいと思います。ただ、合併から15年経過し、これから20年後には35年経過していくこととなりますが、その時に一つの町であるという考え方はその時も続いているのかは、少し想像ができない部分でもあります。そういう意味で、今議論するのであれば、

そこは保っていく必要があるのではないかと思います。パターン2を考えたときに、基準に満たない場合は義務教育学校に扇動するようにも見て取れます。義務教育学校にして良さを活かそうとしているのですが、それは議論の過程の中でそうするのが望ましいと決定されているわけで、どこの地域においても義務教育学校がふさわしいというわけではないので、そのあたりも含めた表現の仕方にしないといけないのではないかと思います。

委員

新市・旧市エリアにこだわる必要があるのかというご意見に関して、答申案の「はじめに」に「地域コミュニティの核としての学校という視点」ということが書かれているので、そう考えるとパターン2の考え方はありだろうと思いましたが、ただ、義務教区学校ありきに流れていくのはいかがなものかという意見を伺うと、それもそうだと思います。子どもたちがますます少なくなっていく中で、なおかつコミュニティの核としての学校の位置付けがほしいということを見ると、義務教育学校以外に何か方策があるのか自分の中では思いつかず何とも言えないところです。

委員

この3つのパターンを見て、パターン2が概ねいいのではないかと思いますでしたが、パターン3まで食い込むエリアもありではないかと思いましたが、したがって、パターン2とパターン3の間のパターンをさらに考えていきたいという思いがあります。鳥取市が目指すコンパクトシティを考えると、パターン3に踏み込んだり、新市・旧市という考え方を除いていったりしないとうまくいかないのではないかと思います。

委員

20年後というのは計り知れない部分があり、教育の形態自体もかなり変わる可能性もあると思います。そのような中で考えると、パターン2がいいのではないかと思います。パターン3については、旧町の範囲を越えて考えるという点で難しいと考えます。ただ、若い世代や20年後の住民の考え方によるところもあると思いますし、義務教育学校に誘導するような形ですと限定的になってきそうなので、パターン2とパターン3の間くらいがいいのではないかと思います。

委員

答申案については、これまでの意見等を反映したものになっていてわかりやすくなったと感じました。児童生徒数の推計をもとに3つのパターンが示されていますが、数値的なことでいけば、パターン3になっていくということが現実にはあるということを見たときに、地域に根ざした学校ということを考えてパターン2とパターン3をどのように合わせていくのかなかなか難しいと思いましたが、現実として、児童生徒数が今後も減っていくということが数字で出てきていますので、パターン2をベースとしながらどのようにパターン3に近づけていくのかというのが今後の議論になるのではないかと思います。

委員

答申案の組み立てについては、私もいいのではないかと思います。パターンについては、二点に分けて考えていきたいと思いましたが。

一つは、あくまでも検討するためのシミュレーションということで、大雑把に過去の減少率を現在の児童生徒数に掛け合わせて示したものが、これらのパターンであると思います。一方、私たちが答申で出すことを考えると、20年という都市計画で言う大きなフレームですし、人口はこれくらいになるということしか言えないのであくまでも絵を描くという視点で見れば、パターン1や2はあまりにも詳細すぎるような気がします。一度、答申を出すと皆さんがそれにとらわれますし、途中で方向が変わるとなぜそんなことになるのかという話になってくると思います。

ここで色々とシミュレーションすることは非常に重要ですので、人口の変わり方の設定がラフなので、校區別に過去のデータを見て今用いている減少率が安定しているのかもチェックしてみてもいいかと思っています。この減少率でもいいということであれば、それはそれでわかりやすいのでいいと思

ます。

パターン2と3を見ていて、以前に他都市の校区再編の将来プランのようなものをお示しいただきましたが、それと比べてパターン2というのは非常に細かく示されすぎているように思いました。パターン2と3を見比べるとエリアが、開発が行われたり、急にマンションができたり、人が急にいなくなったりすることがあり得ますし、また、谷があつたり山があつたりして交通ネットワークの観点からも同一校区としてつながるのが難しい地域もあると思います。この辺りとこの辺りという大きなエリアでくくるといふ考え方については20年後も変わらない部分があると思うので、そこは示せるのではないかと思います。その中で、いくつかのシミュレーションをしていくわけですが、現行だとうようなとか、これだけ厳しい状況になるとか、義務教育学校だとうようなパターンがあるとうことを示すことはいいかと思います。答申を出せば住民がそれにとられるとうことも考えて、示していくのがいいのではないかと思います。

会長

以前、秋田市や栃木市の計画を資料としてご覧いただきましたが、そのことをおっしゃられたと思います。今回は資料に付けておりませんが、また確認していただきたいと思います。市町村で20年後まで想定した図とうのはそんなに多くは作られていませんが、鳥取市も児童生徒数が減少してきていますので、今おっしゃられたようもっと大まかなことでも結構ですし、ある程度想定できるような形ででも出していききたいと思います。

副会長

答申案の文章については、先ほど委員さんからご指摘のあつたようなことを直していけばいいのではないかと思います。3つのパターンについては、パターン3についてはあり得ないと思います。委員の皆さんは、なぜ20年先に人口が減少することを断定されるのでしょうか。私は増えることもあると思います。県も市も総力を挙げて働く場を確保するとか、大学生を鳥取に留めるとうような人口を増やすとう政策をとっていこうとしている中で、数を減らしていくのだとう考え方には私は賛成しません。鳥取市は、新市域と合併して、特例市にもなり現在中核市にもなっています。新市域に何でもメスを入れて減らしていけばいいのだとう考え方には反対です。新市域は、かつてはそれなりの町村でしたし、歴史も文化も伝統もある中で、そこで何とかいい地域にしていこうとうことでやっているわけです。新市域だけでなく、旧市域においても人口は減っています。そうすれば、同様に旧市域の中心部においても小学校と中学校は1校でいいのではないかとう議論にもなります。ですから私は、どのパターンがいいとうことは言いません。

会長

先ほどおっしゃられたことは、非常に重要なことで、鳥取市になって良かったとう色々な仕組みを皆で考えていかないといけないと思います。今まで培ってきた歴史とうものもあり、それも大事にしていきたいとうこともありますし、それぞれのパターンで示した学校の線引きの中でも、むしろこうすれば近くの学校に通学できるとうこともありますので、全体として少しずつより良い学校のあり方を考えていければと思います。基本的には国の基準に合わせたいとうのはあるのですが、それは教育の効果が上がるとうこと、それから子どもたちの中での学び、もう一つは先生方の配置とうこともありますので、そういったことを含めて我々としては魅力的な学校を提案していきたいと思います。全体として、このパターンをどうしていくのかとうことはあるのですが、もう少しご意見をいただきながら協議を進めていきたいと思います。こうしたパターンとうのは、人口減をもとにしたパターンです。それはそれとして考えざるを得ないです。ここ何年間かの傾向を考えると、若い人がいないとう前提に立てば、考えていかないとはいけません。もう一つは、この校区審議会を超越した話になるのですが、人口を増やすとうことがあり、県も市も努力して取り組んでいます。鳥取は子育て王国とうことで、移住者も多くなってきており、鳥取市は住みたい田舎日本一だとうことにもなっているのですが、保育園を考えると市全体としては足りているのですがなかなか行きたい保育園に行きにくいとうこともあります。そういう意味で、子育て王国になっているとはい言難い部分もあり、そういった

不満を耳にすることもあります。そのあたりの手立てがまだなされていません。なかなか子どもが増えるような仕組みにはなっていません。そういったことを含めて、こういう学校をつくっていきたいということを我々として考えていく必要があります。人口減ということを受け止めつつ、これから先に人口を増やすことを含めて魅力ある学校をつくっていくための審議を続けていきたいと思えます。

今までご意見を伺っていった中では、従来の中学校区をもとにして市町村の歴史を尊重してそこには学校を小中一貫の形で残すということがありました。あくまでも 20 年先ですので、これより先はまた合併というのがあるかもしれませんが、その間には人口を増やす努力も当然していかないといけないかと思えます。もう一つは、旧市内についても様々な形での学校のあり方を考えていかないといけないということになります。これについては、もう少し時間をかけて議論していきたいと思えます。旧市内の中には幹線道路を隔てて通学している現状もあり、安全上の課題を抱えているところもありますので、そういったことも工夫しながら提案して議論を進めていきたいと思えます。先ほど〇〇委員さんからもありましたが、それぞれの町の拠点としての学校のあり方を模索していかないといけないし、仮にそれをなくしたらどうするのかということも大変な話ですし、それを踏まえるとそれぞれの地域が繁栄していく形になるように拠点として残していきたいという気持ちもありますので、そのあたりをもう少し議論していきたいと思えます。

もう一つの議題の「千代川以西エリアの学校のあり方」についてですが、中長期的な学校のあり方の議論とも絡んでいきますので、併せて審議をしていきたいと思えます。千代川以西については、もう少し具体的に提案していきたいと思えます。千代川以西の一番の課題は、安全面です。そして、校区へのこだわりが強い傾向があるということ、もう一つは町内会が存在しないという場所もあるということがあります。校区審議会の協議内容を越えるのですが、自治会の設立や公民館のあり方なども含めて全的に考えていく必要があると思えます。例えば、災害が起きたて避難することとなったとき、千代川を渡って城北公民館に行くのかという話も前回ありました。安全に避難もできるし、平日頃から自治会として町内会としてきちんとまちづくりをしていただきながら学校を応援していくような仕組みをこの際提案できないかと思っています。それから学校がまちづくりの拠点にもなるし、これまで自治会がなかったようなところでもお互いに支援しながら子どもたちを伸ばしていくということを考えると、やはり千代川以西に学校を新しく作ってはどうかということも考えられます。その理由として、世紀小学校の改築が必要な時期に迫ってきているということがあります。そういったことを含めて、新しい教育を目指すということで、ある程度大きい規模でも義務教育学校をつくって千代川以西でまとまった形で鳥取市として新しい教育を目指すということも重要ではないかと思っています。義務教育学校というのは、小さい学校のための救済措置のような形で考えられている部分がありますが、そうではないとは思っています。9年間の一貫教育で今までとは違った魅力が出せるのではないかと思っています。そういった形で新しい学校のあり方を提案していかないと、千代水地区の方々がおそらく納得しないのではないかという感じを持っています。今まで堂々巡りで、安全面に課題があるという結論は出しても地元の同意が得られずに校区再編ができないという状況できています。千代水地区のアンケートでも、現状のままがいいということでした。こういうことを踏まえて、千代川以西に義務教育学校を含めて新しい学校ということも一つの考え方ではないかと思っています。中長期的な校区のあり方の議論もにらみながら、千代川以西については早めに具体的な提案をしていけたらと思えます。多くの方々が町内会に参加されてまちづくりをするような形での学校づくりをしていければどうかと思えます。少しお伺いしますが、大規模な義務教育学校の例はありませんか。

事務局

近いところでは、姫路や神戸にそういった学校があります。神戸空港のそばのポートアイランドに港島学園という義務教育学校が開校してしまっていて、800 人を超える規模の学校です。義務教育学校ですので校長は 1 人なのですが、教育委員会の指導主事も配置されているという特徴もあります。鳥取市としては義務教育学校自体を推進してつくりたいというわけではなく、小中一貫教育を大事にしようという大前提はありますが、小学校と中学校を残して一貫校という形や、あるいは一つの学校として義務教育学校とすることもあります。そのあたりは、地域の実態を踏まえて、地域でまずは協議をしていただく中で、その地域にはどういった形の学校が望ましいか検討して決めていくような流れになっています。港島学園は、地域の実態というよりは、一つの人工島でマンション群が立つエリアですので、大規模化

しているところにあえて一つの大きな学校として大きな方針をつくって高いものを目指していくという、鳥取とは異なる義務教育学校として教育が行われているという学校もあります。そういった大規模な義務教育学校も少しずつ増えていると思います。

副会長

千代川以西の課題については、千代川を境に分離していくという方向で賛成したいと思います。何十年も議論をされて結論が出ないということは、校区審議会の怠慢だと思います。私たちの期で結論を出すということにも賛成です。千代川以西に新しく学校を建てていくという方針についてもそれがいいのではないかと思います。義務教育学校については、色々のご心配の声もあるようですが、義務教育学校になれば校長の裁量が小中と増えますので、6・3制でなくてもいいですし、比較的の学校経営も柔軟に行えるということもあると思います。小1プロブレムや中1ギャップの解消にもつながっていきますし、決して義務教育学校が悪いということはないと思います。町内会の問題ですが、鳥取市自治連合会としても町内会の加入率を上げようという運動をしています。しかし、その加入率がなかなか上がらないのですが、その理由としては世帯分離をされる傾向にあることから世帯数が増えて分母が増えて、その分離された方が自治会にあまり加入しないということがあります。それから、マンションに入っておられる方もあまり加入されないということもあります。また、町内会に入っても入ってなくても同じサービスを提供してくれるということもあります。ゴミ集積所を作ってほしいとか、防犯灯をつくってほしいという要望があれば、市として対応されるということがあります。したがって、会費を払ってまで町内会に入る必要がないという断り方をされる場合もあります。市としては、納税をしてもらっている住民に対してやりませんということとは言えないこともわかりますが、ある程度のものがないとなかなか町内会に入るということが非常に難しいという現状があります。

委員

会長に以前にいくつかの方策を示していただきましたが、その時に新設できれば一番いいのだろうということをおっしゃられたのを覚えています。住民の方にとっては、他の案に比べて納得が得られやすいような方法であると思います。20年先の中長期的な校区のあり方のパターンを見ても、中学校もこの辺で1つか2つ、あるいは3つということを見ると、一つの考え方になってくるのだろうと思います。地域が未来に向かって意思決定していくことにもなってくると思います。住民でまちづくりをしていこうということになると、昔の道普請やまち普請とかということをやっつけていかないとなかなかお金がないので、愛着をもって地域をつくっていくということが今後ますます重要になってくると思います。住民の力でまちをつくり、その中にも学校もその中に含めていくという流れはいいのではないかと思います。

委員

これまで議論する中で、千代川を渡るのはいかがということ共通していて、ではその方策についてはどうかということを検討してきて、当初は近隣の学校への再編ということがありましたが、もう少し視野を広げて新たな学校や義務教育学校ということも出てきています。ここでネックとなっているのは、学校へのこだわりだと思うので、地域の学校としてみんなが応援していこうということでは、新たな学校の形を鳥取市として示していくという視点でいってもいいのではないかと思います。また、世紀小学校の校舎の検討時期にきているということ踏まえても新たな学校などを考えることもありなのではないかと思いました。

委員

新しい学校を新設するという点についても、これまで実際に周辺を回って、建てるとするのであればこの辺りになるのかなというような場所にも連れて行っていただいたこともありましたが、予算的な問題や20年後の子どもの数を考えたりした中でなかなかそこまで踏み込んだ形にはなりません。他の方法がいいのではないかとということで、ずっと検討されてきた部分もあったのですが、学校というのは学校の中だけで教育活動を行うわけではなく、周りの地域づくりやまちづくりに携わる住民の方々

の連携や協力が非常に重要な部分がありますので、まずはそこが学校の校区の中でできていってほしいという気持ちが強いです。そう考えると、予算的な面はありますが新しい学校が一つできればそれに越したことはないのではないかと思います。今、公民館活動も含めて学校が果たす役割が大きいと思いますし、防災の拠点ということもあります。そういうことを踏まえると、あのあたりは水害の状況は大丈夫なのかということも思いますし、鳥取市全体も学校もそうですが、そういった教育環境の面でどうなのかわかる範囲で教えてほしいと思いました。

会長

防災の拠点ということは考えていかないといけないと思います。色々な水害の状況を見ましても、1階はかなり浸水していることがありますので、新しい教室配置の考え方も入れていただかないと防災拠点にならないと思います。大雨の時に川を渡って公民館に避難しているという場所もあると思いますが、それは好ましくありませんので、まちづくりと併せてそのあたりも検討できるというのではないかと考えています。

委員

自治会アンケートでも新たな学校がいいという意見もありましたし、もしかすると財政的な面も考慮して新しい学校を建ててもらうまでは心苦しいと考えた方もいらっしゃるでしょうし、世紀小学校の建て替えの時期と併せて検討するというのであれば、その新しい学校に対して地域としての期待も出てきて、魅力的な案ではないかと思いました。

委員

パターン2を見たときに、千代川以西の方々に向けての区分けとしていい案であると思いました。ここで再編できれば、今までのイメージとは違うものができる可能性があるのではないかと思いました。高草中学校ありきではなく、小学校の再編も加わってくることで、違う学校づくりというのが可能になってくるのではないかと考えています。やはり小中一貫校の方がより魅力が増すのでしょうか。

会長

一貫校になることで9年間を通じて新しい教育ができるのではないかと思います。福部未来学園も魅力的な学校になりつつありますし、もう少し大規模でも実施されている例がありますし、鳥取市の教育委員会としてもそういったことに挑戦してみる意味は大きいと思います。小学校と中学校別々でも今までのような教育はできると思うのですが、小中一貫の中に新しい教育のあり方を取り入れ、5・4制など新しい学年のブロック分けも可能ですし、一つの学校として教育目標をつくることもできます。校長先生一人でやればいいというのではなく、江山でも地域の方々が集まって学校をつくっているわけです。校長先生が交代したら教育方針も変わるということではなく、新しい学校はこういう目的でこういう子どもを育て、地域としてこうするのだというような、ある意味で私立学校のようなのですが、そういった学校が9年間一貫した義務教育学校だと思います。そのように考えると、千代川以西でも少し大きな学校をつくれれば魅力を感じるでしょうし、鳥取市の教育としても新しい目玉になるのではないかと思います。あるいは、教職員にとっても小中一貫して育てるということで、中学校の先生が小学校でも英語を教えるなどという場面もあるでしょうし、ある意味刺激にもなるのではないかと思います。そういった新しい学校を目指していくというような発想もないと、千代川以西の保護者の方々の考え方も変わっていかないのではないかと考えます。やはりこの校区審議会で、20年後を待たずに早いうちにそのような学校をつくっていったならば、鳥取市の子どもにとっても、教職員方にとってもいいのではないかという思いでもあります。

副会長

義務教育学校になってくると、教科担任制が行われて中学校の教員が小学生に授業をされます。福部の場合は、みらい科という新設教科で実施しているのですが、その概要は英語教育と道徳教育になります。英語の先生が外国から2名来ておられて、1名は専属で毎日、1名は1週間に3日程度来られます。

そのように2名体制で英語を教えるということもありますし、学校の中でも幼稚園から9年生まで縦割り班を導入して4班つくっています。運動会や文化祭など発表するようなことがあるときは、班ごとで競わせたり発表させたりします。そうすると幼稚園の子どもと9年生が一つの班ですので、そこで交わることでお互いが何かを得るといような効果が出ているように伺っています。また、福部はラッキョウの産地ですが、学校の中で生産から販売まで体験を行います。7年生が植え付けを行い、8年生は収穫をし、9年生の修学旅行では収穫したラッキョウをラッキョウ漬けにして冊子も作って舞浜の駅で配ります。中には外国の方にも英語で話しかけて交流を図るといこともやっています。時には、外国の方からお礼状が届くといこともあるようです。義務教育学校では、そういったことができるといことで、いい面があると思ひます。

委員

千代川以西に学校をつくるという考え方は必要だとは思ひます。大規模な義務教育学校といものもありだとは思ひますが、そうなった時のエリアで考えると、高草中や湖東中や義務教育学校の湖南学園もある中でどうなるのだろうと思ひます。江山も新しい学校をつくる中で、夢を持ちながらやっているわけですが、現実的にそれが実現できるかはその時になってみないとわかりません。江山は、これまでの義務教育学校と違って、自治会も3つあり、小学校も2つが1つになるといことがあります。これは、保護者的にはそんなに違和感はないのですが、地域としてはかなりの議論があるところだと思ひますし、今でも1つになりきれない部分もあります。これからの地域と学校とのつながりを考えたときに、美和小学校の中にも美穂と大和と2つの自治会があるのですが、そこは色々ある中でも1つになっていったといことがありました。これからは神戸が加わって3つの自治会の範囲で義務教育学校をつくるのですが、運動会は地域と学校とは別でやるという議論もなされています。今までは、地域と一体になった教育の中で運動会も一緒にやっていたものが、1つになることによりて地域と学校は別々ですとい話が片一方で出てきます。複数の自治会がある中で、学校をつくるとなると、課題が出てきます。先ほど説明のあった神戸の狭いエリアでのマンモス校でしたらいいのですが、この大きな千代川以西のエリアが1つになって、そう簡単な話ではないと思ひました。ただ、議論としては、新しい学校をつくっていくのだといことであれば、近隣の学校と一緒になるといことや義務教育学校など選択肢は色々あると思ひますが、義務教育学校に限定すると反発も出てくるのではないかと思ひます。湖南学園は校区外から何十人も人を集めて色々特色のある教育をやってきた実績がありますが、それを置いて議論しましょうといことになるのかを踏まえると、難しい問題だと思ひます。ただ、城北小学校を千代川と隔てて分けていくといことは必要なことだと思ひます。

委員

千代川を子どもが渡って通学するといのは好ましくないといのは審議会でも議論しているので、しっかりと線引きをしたいといのはあります。どこの学校でも言えることですが、やはり自分の通った学校がいいとい気持ちがあり、今のまま続いてほしいとい希望にもつながってくると思ひます。そういった中で、学校区を分けるとなると、他の学校も魅力的だといことを打ち出そうとすると新しい学校といのは目玉にはなるかと思ひます。私は、今までは小学校は新しい小学校にして、中学校は高草中学校でいいのではないかと思っていたのですが、やはりそれではいけないとい意見の方も多く、新しい学校で魅力的な学校であるといことを示さないとなかなか理解が得られないのではないかと感じていました。新しく千代水地区だけで小中一貫校といのは、規模も小さいので財政的にどうかといことはありますが、会長が先ほどおっしゃられたのは千代川以西の学校を統合あるいは再編しながら、既存の学校の位置において小中一貫教育といこともあり得るといことだったと思ひます。今の江山もそうだと思ひますが、今までは正直そんなに乗り気ではなかった部分もあったかと思ひますが、新しい学校ができる中で真剣に子どもたちのことについて考えていただいています。このように、地域の方に、もっと学校のことを考えるいい機会になると思ひるので、そういったアイディアは手段の一つとしていいのではないかと思ひています。それから、先ほどのパターンの話になりますが、パターン2は中学校校区で1校といように幅がなさすぎるので、ここのエリアで中学校は1から2とか、小学校は2から3とかともう少し幅を持たせていけば、少し議論がしやすいのではないかと思ひます。存続する場合もあり得るわけですので、幅を持たせた方がいいと思ひました。

委員

義務教育学校がどこにできるかということがすごく大きいと思います。線路よりも北なのか南なのかということで変わってくると思います。線路より南につくるのであれば、世紀小学校か高草中学校をより大きくした義務教育学校になって、そこに千代水の方が線路を越えて小学校のときから通学してくるということを想定しないといけません。線路より北につくるのであれば、例えば安長や緑ヶ丘や五反田に仮にできたとしたらより安全に通学しやすくなるということになります。高草中学校に通っている明治小学校区や東郷小学校区の生徒たちは今のバス路線で沿って通学して下車して線路を越えて通学しなければいけないということになってきます。いずれにしても非常に広い校区になりますし、大変だろうと思います。湖南学園もその中に含めるかどうかということになると、さらに難しい課題だなと思いました。線路と千代川と9号線バイパスで区切って考えれば、現実的かどうかは別にして、湖山の一部を再編して新たな小学校ができればどうなのかということも考えたりもしました。しかし、高草中学校と一緒にした学校となると、線路を越えて小学校1年生から行き来するのはどうだろうと思いました。また、同時に選択制を認めてほしいという意見や色々な意見が出てくるのではないかと思います。

最初に会長がおっしゃられたように、小学校区と中学校区、自治会と公民館との区分けの部分を今後見直していかないといけないと感じながらも、子どもたちにとってどうなのかということが一番考えていかなければならないと思いました。義務教育学校については、湖南学園が一番早くできましたが、最初に卒業した子どもたちがようやく10年過ぎます。つまり、25歳くらいになっていて、その子どもたちが義務教育学校で学んで良かったと感じているのかということをおもいます。行政の考え方と地域の大人の考え方によって、こうがいいだろうと思いつながらの決断の中で育った子どもたちがいるわけです。どこの義務教育学校においても、特色を打ち出した義務教育学校としてより良い学校を目指そうということで必死なのですが、その大人の思惑と子どもの実感とのズレなどはどうなのか、そこに着目していかないといけないと思います。つまり、地域を囲いたいのために、湖南も福部も鹿野も江山も学校を残すのですが、実際にその子どもたちが義務教育学校でなく、例えば湖南学園の子が高草中に通っていたとか、福部の子どもが中ノ郷に通っていたとかといったことがあったならば、もっと大きな規模で中学校3年間を過ごせていたかもしれないということを想定しながら、子どもを第一に考えておく必要があると思います。逆に義務教育学校にしたがために、他の中学生が体験していることを体験できなかったということもあると思います。例えば東部陸上という大会があるのですが、その大会に出ることができない学校があります。それは学校対抗の運動会のようなものですので、なければいいのですが、今後そういうケースが増えてくるということを考えたときに、義務教育学校で育った中学生が高校、専門学校、大学等を出てその後どうなったかということ把握しておかないといけないと思います。大人は学校の特色を活かして良かれと思って、色々なことを地域と関わるようにということで、ここ10年間くらいやっているのですが、そこで学んだ子どもたちが本当に地域に根付いていくのかということを持って、どの選択肢が子どもたちにとってベターなのか、2040年だけでなく、2060年、2100年に向けて今の子どもたちが生きていくわけですので、そういうことも必要なのではないかと思います。千代川以西の子どもをどうするのかということを含めて、義務教育学校という選択がどういう影響を与えるのかということをお考えなくてはならないかと思います。

委員

湖南が小中一貫校になって10年になりますが、完全に一貫校で9年間過ごした子どもたちはまだ、高校生くらいだと思います。その当時の子どもたちに対して湖南学園で良かったかどうか聴くというのはなかなか難しいと思います。教育の効果というものは、いつ自分で実感できるのかというのは永遠の課題で、いつのタイミングでそれを感じるかということはお人それぞれだと思います。手がかりとして効果を検証するのであれば、先生方なのではないかと思っています。9年間ずっと同じ学校で勤務することはおなかなかないと思いますが、そういった中でも、義務教育学校の学びの成果というのは卒業生に聴いたり、勤務した教職員に伺ったりしてやっていってもいいのではないかと感じました。

義務教育学校をつくってはどうかということですが、参考資料の8つの案の中の1つの案ですが、私も一つの案としてはいいのではないかと思います。先ほどのパターンの話に通じるのですが、今ある何らかの区割りを変更せずに学校を活性化するなり、良くしていきましょうというのはどこかで限界

があると思うのです。できる部分もあるのですが、今ある枠組みを全く変えずに今いる人が今いる顔ぶれが変わらずに頑張りましょう、良くしていきましょうというのには限界が来ていると思うので、そこに関わる方たちの顔ぶれも変えながら、例えば学校設置を機会に他の地域から入ってきた人と一緒になるとか、自分たちでつくっていくのだということを、校区審議会や教育委員会が後押しできるようなものであれば夢が持てると思います。今ある地域で、同じ顔ぶれで、枠組みの中で、今ある学校ありきでというのは、20年後を考えるとなかなか難しい面もあるのではないかと思います。今ある線引きや枠組みや学校も含めて、自分たちでつくり上げていくようなそういう姿勢をこちらも出していかないと、学習指導要領などでも主体的・能動的な子どもたちを教育していくという時代ですので、大人がそういう姿勢を見せないといけないと思いますので、そういう意識で考えていけたらと思います。

会長

新しいことにも挑戦する姿勢もないと、旧態依然に終わってしまうのではないかと、ただ線引きだけ変えて終わってしまうのではないかとということが少し心配なところでもあります。時代は、我々が育ってきた時代と大きく変わってきています。鳥取でも外国人が増えてきています。今はベトナムの方が一番多くなっています。ボランティアの方も、英語が通じない、ベトナム語はわからないという大変な状況もあります。わかりやすい日本語で何とかコミュニケーションを取っているという状況です。学校でも、そういった方たちの子どもたちがおられると思いますが、個別指導を行うこともあるでしょうが、それでも理解が難しくなると学校が嫌になるということもあると思います。鳥取はそれでもまだ少ない方ですが、必ずそういった時代がやってきます。なにしろ、働き手がいなくなります。働き手を増やしていかないといけないのですが、子どもはすぐには大きくなりませんので、いくら子育て王国と言っても、鳥取市としてはある程度挑戦していく部分もないといけないのではないかと思います。少し大きい規模での義務教育学校というのが、地域のことや将来も考えると一つの挑戦ではないかと考えますが、なかなか難しい部分も当然あると思います。

事務局

少しよろしいでしょうか。

委員さんから予算があるのかというお話がありましたので、そのあたりの関連についてお答えさせていただきます。世紀小学校は鳥取市の中で古く、更新していかないといけない時期にきています。明治小学校も同じです。大正小学校も東郷小学校も古い方になります。高草中学校は比較的新しいです。そういった中で、世紀小学校の建物の更新を考えるにあたって、高草中学校は少し早いかもしれませんが、一つの学校をつくるというのは、行政としても考えられる選択だと思います。自治会アンケートの中には、千代水に学校が建たないかということがありましたが、それだけではなかなか難しいと思います。ある程度スクラップアンドビルドしながら、一つ大きくして残すということであれば、行政的に世紀小学校はもともと更新しないといけないものですので、それを考えることはできると思います。校区審議会の中で、行政がおそらく新しいものは建てないだろうから議論しても無駄だという話にはなってはなりませんので、今そういったことを申し上げたところです。もちろん、必ず約束できるものではありませんが、今の話は、選択肢の一つとして、積極的に議論いただいて結構だと思います。

会長

考え方の一つとして、可能性としてはあるのではないかとということでした。むしろその中に、新しい教育をしていくという形を入れないと、今までの小学校と中学校だけというのではなく、もう少し新しい教育をするということを入れておくことによって、住民の方のご理解も得られるのではないかと思います。20年後の校区のあり方とは別に、千代川以西エリアについてはこういった形で進めていただきたいといった答申になると思います。そのあたりを次回以降、もう少し資料もそろえますので、ご検討をお願いしたいと思います。湖南学園にしても、20年後には、どこかと一緒になるのがいいのか、今のままでいくのかということがありますが、本当に子どもたちにとっていい教育とは何かということは常に我々の課題だと思います。小学校、中学校、高校、大学というのが今までの教育の区切りでしたが、そういうものとは異なる9年制というものが出てきていて、都市部では中高一貫の公立の中等教育学校

ものもあり、伸びてきています。ある程度長期的に子どもたちを目配りして育てるということも大事だと思います。何が一番変わるかという、子どもも変わりますが、先生方の考え方が深く幅広くなります。例えば、小さい中学校の音楽の先生などは、2つ3つの中学校を掛け持ちすることになります。それが、義務教育学校として小学校を含めたある程度の規模になると、1つの学校の中で中学生も小学生も教えるということになります。それは、音楽に限らず他の教科についても同じです。そういったことも踏まえると、魅力ある学校になるのではないかと思います。

次回以降もこれらの審議をお願いしたいと思います。皆さんの方で、次回までにこんな資料を付けてほしいなどの要望があればお伺いしたいと思います。

委員

13期の中で提示いただきましたが、校舎の建替え順といますか、古い順の資料があったと思いますので、それをもう一度付けていただきたいと思います。

会長

わかりました。準備させていただきます。

答申案についても、また修正して付けさせていただきますので、お気づきの点がありましたら次回以降も随時よろしくお願ひします。

最後に、次回の日程調整をさせていただきます。

それでは、次回は、12月23日の14時からということをお願いしたいと思います。

事務局

慎重なご審議、大変ありがとうございました。以上で第7回鳥取市校区審議会を閉会します。

令和 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 音 田 正 顕

署名委員 吉 澤 春 樹